

{ 学芸員のある1日 }

【大阪市文化財協会】調査課長 高橋工たくみさん

発掘調査員歴33年!



関西大学文学部史学科で考古学を学び、大学院卒業後に発掘調査員となる。考古学を志し新潟から東京でなく、関西の大学へ。専門は古墳時代。

遺跡発掘の
全貌に密着

多彩な熟練スタッフを 束ねる発掘調査の 総指揮官

今年で発掘調査歴33年になるベテランの調査員高橋工さん。今担当している現場は江戸時代の大名の蔵屋敷のひとつ。調査の着手時、明治時代に建てられた倉庫跡の下に蔵屋敷が埋まっている状態だったため、まずは地層を一層ずつ慎重に掘り進めました。約1ヵ月半で人の背丈ほどの深さになり、よ

うやく江戸時代の地層が出現。こうした現場での高橋さんの役割はいわば総指揮官。発掘調査の知識と経験から出土ポイントを見極め、調査の優先順位を判断し、発掘の方向性を決断。重機の操作や発掘作業に特化した熟練スタッフのサポートを受けながら、現場を進行していきます。一方で、調査報告書の作成も欠かせない作業。出土品を事務所に持ち帰り、最終的に1冊の資料に仕上げます。これにも熟練スタッフの存在が不可欠です。こうした調

査を33年間で120件以上経験してきた高橋さん。これだけの経験値があれば、重要な出土品を掘り当てる確率も上がるのでは?と素朴な疑問が湧きます。「経験値はほぼ関係ないですね。でも僕は“持ってる”方ですよ」と微笑む高橋さんは、何とこれまで重要文化財を2度も掘り当てた実績の持ち主。残り2年で定年を迎えるという今でも「あのエリアを掘ることができたら、新発見があるだろうな」と思うことはあります(笑)」と、まだまだ探究心は尽きません。

4:00 a.m.



熱中症防止のため
日除け付き
ヘルメットを装着!

発掘現場での様子

朝9時~夕方5時までフル稼働する高橋さん。熱中症防止の装備の他にも、現場には個性的なアイテムがさまざま。写真下のスコップは、出土品を傷つけないようスコップの先端をカーブさせた自作アイテム。土を効率よく掻き出すことでできて一石二鳥です。



所々にある窪みは当時のゴミ捨て用の“穴”。この穴から欠けた食器や瓦が出土する可能性が高いため、丁寧に土を削り出土品を傷つけないよう発掘します。ほかに便所用の甕(かめ)や、下水溝の跡などが出現しています。

1:00 p.m. 報告書ができるまで

(写真左から)発掘した出土品を事務所に持ち帰り、まずは付着した土を洗い流します。材質に応じてブラシ、ハケなど道具を使い分ける繊細な作業です。(中)コンパスや定規でサイズを細かく測り、図面に書き起こします。形状や模様など土器がどのように作られたかわかるよう情報を記録。(右)このあとはデジタル部門の仕事。手書きの図面をベースにトレース。すべての図面、原稿、写真を誌面に組み込めば報告書の完成!



高橋さんが発掘した重要文化財「船形埴輪」を記録した長原遺跡発掘調査報告書(1991年)など。

コレクション・ギャラリー #04

2022年早春開館! 大阪中之島美術館の名作

蓮の華を撒きながら華麗に舞う二人の菩薩。画題を日本の古典に求め、伝統を踏まえつつも健康美あふれる近代的な表現に到達しています。ちなみにこの菩薩、モデルという職業が珍しかった時代に、新聞広告で募集した女性をモデルに描かれたのだとか。本作品は、写真の六曲一隻屏風と、2つの二曲屏風から成る大作で、写真の左右には菩薩を見守る僧侶が二人ずつ描かれています。



「散華」(部分)土田麦僊 制作/1914年 絹本着色
六曲一隻、二曲二隻(六曲:167.0×373.2cm、二曲:各160.0×177.0cm)
(写真は六曲)

文化庁

令和2年度文化庁
地域と共働した博物館創造活動支援事業

OSAKA
MUSEUMS

VOL.15

自分の“好き”を探しに

ミュージアムへ

TAKE FREE
大阪市内
6ミュージアム
+1スポットのトピックス

2020 2021

12月-2月



自分の“好き”を探しに、ミュージアムへ

こんな時には こんなときだからこそ…

2020年は百年に一度と言われる災禍に世界が見舞われ、私たちはまだその最中にいます。非日常が日常となる不安な日々。この濃霧、一刻も早く、晴れて欲しいものです。今号のOsaka Museumsは、大阪の「顔」、艶やか、ゆったり、華やか、懐かしい、ほっこりなどと眺めていると「元気・活気が出る(かも)コレクション」をご紹介します。それぞれの形で放つ、個性あふれる逸品。皆さんとの出会いをお待ちしています。

大阪市立東洋陶磁美術館

【加彩 婦女俑】唐時代/8世紀
住友グループ寄贈(安宅コレクション)

ふっくらとした頬と豊かなシルエットが印象的。左手にいたとされる小鳥のさえずりに耳を傾ける仕草がチャーミングです。これは中国・唐時代の絶頂期である盛唐期の副葬品で、当時の美人像が表現されています。展示場ではゆっくりと回転する展示台に立つ唐美人を色々な角度でお楽しみください。

◎展示中(2階中国陶磁室 後漢～宋時代)

写真:六田知弘



気品あふれる佇まい
ふっくら豊かな唐美人

世界のアートに 影響を与えた 北斎・不朽の名作が登場

大阪市立美術館

【富嶽三十六景 神奈川沖浪裏】葛飾北斎
天保元年～4年(1830-33)頃、大判錦絵
植田喜久子氏寄贈

言わずと知れた北斎の代表作。富士をテーマにした連作「富嶽三十六景」のうちの1図です。ダイナミックな大波とそれに翻弄される3艘の押送舟、遠景には悠然とそびえる富士の姿が描かれています。本図は、日本のみならず海外の多くの芸術家たちにも影響を与えました。本年度、市内在住の個人の方から寄贈された大阪市立美術館のニューフェイスです。

◎2021/1/9～2/7(2階コレクション展「富士礼賛」にて展示)



浪花伝統芸能の ヒロイン“お染”

大阪歴史博物館

【文楽人形 お染(娘)】幕末～明治時代(写真左)

大阪で生まれた人形浄瑠璃・文楽は、物語を語る太夫、三味線、人形遣いの三者が作り上げる総合芸術。人形自体も人形師、鬘師、床山といった職人技の結晶です。戦災で四ツ橋文楽座とともに多くの人形が焼失した中、コレクターの手元に残った貴重な人形が寄贈されました。そのため古い時代の優れた人形のかしら(頭部)が揃っています。

お染・久松ものとして知られる文楽の代表的演目「新版歌祭文」のお染人形。人形遣いの重鎮・初代吉田玉造(1829～1905)が使用していた貴重な人形。華やかな衣裳にも注目。



【文楽人形かしら 老女形】幕末～明治時代

【文楽人形かしら 内匠】江戸時代後期～明治時代

凄みのある悪の性根(しょうね=役柄の性格)を表現した「内匠」(写真右)と、落ちついた大人の女性を表す「老女形」(写真中央)。性根ごとに使い分ける“かしら”には多様な造形があり、立役(男役)、女方、特殊がしらに分類される。人毛を用いた鬘(かづら)など、リアリティある職人技を間近でぜひ。◎展示中(9階 中世・近世)





大阪市立自然史博物館

【ところ変われば虫変わる～昆虫の生物地理～】

世界地図とともに各エリアの代表的な昆虫を示した人気の展示。地球上の生物の中でもピカイチの多様性を誇る昆虫の姿・形の多彩さに圧倒されると同時に、地域ごとの特徴を視覚的に学ぶことができます。

【すみ場所をひろげる～旅をする蝶～】

日常の生息地域を飛び越える昆虫についての展示。長距離移動する、“わたり”の習性を持つ「アサギマダラ」をはじめとする、“旅する蝶”たちの生態を紹介します。

◎展示中(2階 第3展示室)



【ニシキオオツバメガ】
“世界で最も美しい蛾”と称される種。マダガスカル島の固有種。昼に活動する毒蛾だ。



【モルフォチョウの仲間】

青い羽がキラッと光る美しい蝶。鱗粉の細かな構造が青い光を反射する現象で、衣服にも応用されている。



【アサギマダラ】

日本～台湾、朝鮮半島に生息し、季節ごとに海を越え移動する「わたり」蝶の一種。毎年、蝶の羽にマーキングして移動距離を調査する愛好家もいる。

世界の昆虫、百花繚乱！
多彩なその生態と個性



【ミスタンゲット】

シャルル・ジュスマール 1926年
サントリーポスターコレクション
(大阪中之島美術館寄託)

ミスタンゲットに才能を認められ、衣装やポスターのデザインを一任されたジュスマールが描いた作品。独特なスタイルで大胆に表現された色彩や表情が印象的。



ダイナミックに微笑む “レビューの女王” ミスタンゲット

大阪中之島美術館 2022年早春開館予定

パリの芸術が花開いた黄金時代(1920年代)に、レビューの大スターとして活躍した「ミスタンゲット」。“ミス”の愛称で親しまれ、パワフルなダンスと脚線美、チャーミングな表情で舞台を彩り人々を魅了しました。彼女のエネルギッシュな魅力を気鋭のアーティストが描いた当時の公演ポスター十数点が大阪中之島美術館に収蔵されています。

【カジノ・ド・パリ/ミスタンゲット】

ズィグ 1931年
サントリーポスターコレクション
(大阪中之島美術館寄託)

ジュスマールの死後、ミスタンゲットの専属デザイナーとなったズィグによる作品。パリを代表する劇場「カジノ・ド・パリ」に出演したときのポスター。

家電で時代が見えて来る！ レトロポップな昭和の家電

大阪市立科学館

【家庭の電力消費とエネルギー】

昭和初期の扇風機から現代のサイクロン式掃除機まで、さまざまな家電製品約70点を年代別に展示。珍しい製品から、「これうちでも使ってた」というような製品まで、懐かしい思い出に花を咲かせたり、世代間のコミュニケーションが弾む展示です。

◎展示中(1階「電気とエネルギー」フロア)

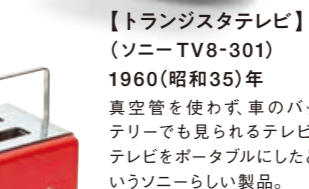


【トースター】
(ポップアップ式) 1970年代
食パンを焼くのに、当時はこのような形のトースターが主流でした。



【電気炊飯器「たからおはち」】 1946年頃

お米と水を入れると、水に直接電気を流して加熱する炊飯器。説明書も当時の雰囲気伝える。



【トランジスタテレビ】
(ソニーTV8-301)
1960(昭和35)年
真空管を使わず、車のバッテリーでも見られるテレビ。テレビをポータブルにしたというソニーらしい製品。



【白熱電気スタンド】
1979(昭和54)年
時計と電気スタンドが一体化。時計の数字は、普通の駅の時刻表のように、パタパタと変わる。



大阪市文化財協会

【人面墨画土器】 奈良時代

形を顔に例え、墨で眉や目・鼻・口を描いた土器。天然痘などの疫病が大流行した奈良時代に「病は疫病神が引き起こす災い」だと考えた当時の人々が編み出した、おまじないの道具だと推測されています。土器の中に息を吹き込み布などで封してから、土器ごと川へ流して、疫病神を外へ追い払うという儀式的なもので、疫病神の顔を描いたといわれることもあります。

◎常時見学可能 ※要予約(連絡先P.7参照)

疫病退散を願った “まじない土器”



大阪市平野区加美遺跡で奈良時代の河川から発見された。筆使いはさまざまで、顔の表現は写実的なものから何ともユーモラスなものまであります。

本誌掲載の展覧会・イベント等の情報は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、中止・延期など予定変更になる場合があります。詳しくは各館ホームページをご覧ください。

展覧会スケジュール | exhibition SCHEDULE

2020.12 DEC	2021.1 JAN	2 FEB	3 MAR
-------------	------------	-------	-------

大阪市立美術館

〒543-0063
大阪市天王寺区茶臼山町1-82
(天王寺公園内)
☎06-6771-4874



【開館時間】9:30AM~5:00PM
※入館は閉館の30分前まで
【休館日】月曜(祝日・休日の場合は翌平日)、
展示替期間(12/14~1/8, 2/8~2/19)
【コレクション展観覧料】一般300円、高校生・大学生200円



コレクション展
12/13

高き空から —仏教美術—

近畿一円の寺社よりお預かりしているご宝物を中心に、仏教美術の優品を展示。このほか2本の企画展示あり
※併催している特別展「天平礼賛」のチケットでもご覧いただけます。



「老松飛瀑図」(部分)
顧大申
清時代・康熙3年(1664)
大阪市立美術館蔵
(阿部コレクション)

1/9

コレクション展
2/7

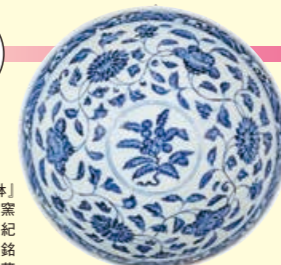
松樹千年、終に是朽ちぬ —絵画の中の自然美—

中国の絵画にみる山水や動植物など自然美の表現を通じて、先人の美意識や人生観を探ります。

富士礼賛—近世絵画を中心に—(※P.3を参照)
このほか5本の企画展示あり

2/20

「青花花唐草文鉢」
景德鎮窯
明時代・15世紀
「大明宣徳年製」銘
大阪市立美術館蔵



※併催している特別展「改組 新 第7回日展」のチケットでもご覧いただけます。

コレクション展
3/21

花咲くやきもの REVIVAL!

唐時代の三彩陶器、ドイツの名窯・マイセン、人間国宝・富本憲吉の作品など、花をモチーフとした古今東西のやきものを展示。
このほか2本の企画展示あり

大阪市立東洋陶磁美術館

〒530-0005
大阪市北区中之島1-1-26
☎06-6223-0055



【開館時間】9:30AM~5:00PM
※入館は閉館の30分前まで
【休館日】月曜(祝日・休日の場合は翌平日)、
展示替期間、年末年始(12/28~1/4)



2020.11.21 特別展 黒田泰蔵

静謐な白磁の造形で世界的に知られている黒田泰蔵(1946~)作品を展示。約60点をご覧いただけます。

黒田泰蔵(写真左)「壺」2019年、(写真右)「円筒」2016年、ともにイセ文化基金所蔵 写真:酒忠之
【観覧料】一般1,400円、高校生・大学生700円
※特別展のチケットで特集展を含むすべての展示をご覧いただけます。



同時開催
特集展 柿右衛門

—Yumeuzurasセクション—

17世紀後半の柿右衛門様式の磁器より、動物や子どもが表情豊かに描かれた「カワイイ」作品約54点を展示。

前期 2020/11/21~2021/3/28
後期 2021/3/30~7/25
※前期・後期で一部の作品が入れ替わります。



「色絵 梅鶴文 輪花小皿」
江戸時代(1670~1690年代)
Yumeuzuras コレクション
撮影:野村淳

7/25

大阪歴史博物館

〒540-0008
大阪府中央区大手前4-1-32
☎06-6946-5728



【開館時間】9:30AM~5:00PM
※入館は閉館の30分前まで
【休館日】火曜(祝日の場合は翌平日)、
年末年始(12/28~1/4)



特集展示 大阪の灯火具

大阪で使われた明かりと灯明油にまつわる道具を、近世を中心に考古・民俗・文献資料で紹介いたします。

「丸行灯
(まるあんどん)」
江戸~明治時代
(19世紀)
大阪歴史博物館蔵



特集展示 蒐集家・高島唯峰 —明治期考古学の遺産—

明治時代の蒐集家・高島唯峰(1866~1960)が集めた縄文時代コレクションを紹介いたします。

1/11

1/27

「今橋式目水帳」
安政3年(1856)
大阪市立中央図書館蔵



特別企画展 大阪の近代化と町 —水帳から公文書へ—

江戸時代の町人身分の共同体であり、都市の基礎単位として機能した「町」。明治以降の近代化の過程でどのように変化したかを、町運営のあり方や土地所有の実態などから紐解いていきます。

3/1

特集展示
大阪市の指定文化財展
—平成28年度から令和2年度まで—
平成28年(2016)度から令和2年(2020)度に新たに指定された大阪市指定文化財を展示。

3/22

3/24

5/17

大阪市立科学館

〒530-0005
大阪市北区中之島4-2-1
☎06-6444-5656



【開館時間】9:30AM~5:00PM
※展示場の入場は4:30PMまで
※プラネタリウムの最終投影は4:00PMから
【休館日】月曜(祝日・休日の場合は翌平日)、
年末年始(12/28~1/4)、3/2
【展示場観覧料】大人400円、高校生・大学生300円、中学生以下無料



12/4



プラネタリウム 冬の天の川

夏に比べて、淡く繊細に輝く「冬の天の川」。なぜ季節によって見え方が違うのでしょうか? 一等星や星雲、星団とともにその理由を紹介いたします。
写真: KAGAYA

※当面の間、プラネタリウムの定員等を変更して開館
【プラネタリウム観覧料】大人600円、高校生・大学生450円、3歳以上中学生以下300円

1/13

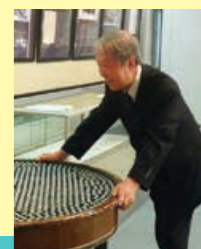
プラネタリウム HAYABUSA2 ~REBORN

小惑星「リュウグウ」への2回の着陸をはじめ、探査機「はやぶさ2」の活躍をリアルなCGで解説します。
©「HAYABUSA2 ~REBORN」製作委員会

2/28

南部陽一郎生誕100周年記念 企画展示「ほがらかに」—南部陽一郎の人生と研究—

2008年にノーベル物理学賞を受賞した南部博士。「物理学の予言者」とも呼ばれる博士の生い立ちと偉業を、写真や資料、体験展示などで紹介します。



3/28

大阪市立自然史博物館

〒546-0034
大阪市東住吉区長居公園1-23
☎06-6697-6221



【開館時間】9:30AM~5:00PM
(11月~2月は4:30PMまで)
※入館は閉館の30分前まで
【休館日】月曜(祝日・休日の場合は翌平日)、
年末年始(12/28~1/4)、2021/1/12~
3/12は改修工事のため臨時休館
【常設展示観覧料】大人300円、高校生・大学生200円



12/12

新春ミニ展示 丑年展

「丑年」に関連して、「ウシ」にまつわるさまざまな生き物を展示します。
ウシのツノのような突起をもったウシツノエンマコガネや、ウシガエルなどの標本を展示予定。
会期:2020/12/12~2021/1/11、及び2021/3/13~3/28

1/11



ウシツノエンマコガネ

改修工事のため臨時休館(1/12~3/12)

自由研究・標本展 ジュニア 自由研究・標本ギャラリー

小・中学生、高校生による生き物や岩石・化石の標本、および生物・地学分野の自由研究を展示。それぞれの自由研究や標本には、学芸員からのコメントも添えて紹介します。

会期:2020/12/12~2021/1/11、及び2021/3/13~3/28

3/13

3/28



2022年
早春
OPEN

大阪中之島美術館

外観イメージ
(大阪市提供)
設計:
遠藤克彦建築研究所



☎06-6469-5194
(大阪中之島美術館準備室/
平日9:00~17:30)



大阪中之島美術館 開館イベント /

募集① 2020/10/12~2021/3/1必着

コレクションへの ラブレターを大募集

コレクションについての鑑賞の思い出や、間もなく出会う作品への期待などをラブレターとして大募集!



募集② 2020/10/12~2021/3/31必着

みなさんの「ホームビデオ」を 募集します

公開:2022年早春(予定)
日々の生活を撮影した、さまざまな想いのつまったビデオテープをみなさんから募集。気鋭のアーティストが新たな映像作品として再生します。



大阪市文化財協会

〒540-0006
大阪市中央区法円坂1-6-41
☎06-6943-6833

【開館時間】9:00AM~5:00PM
※要事前確認
【休館日】土曜・日曜・祝日・
年末年始(12/28~1/4)



OSAKA MUSEUMS vol.16 2021年3月発行予定

『OSAKA MUSEUMS』では、大阪市立美術館、大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館、大阪歴史博物館、大阪中之島美術館、大阪市文化財協会を中心として、大阪市の博物館・美術館の魅力と情報を発信しています。

『OSAKA MUSEUMS』vol.15 2020年12月10日発行
発行/地方独立行政法人 大阪市博物館機構
〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32 大阪歴史博物館内
TEL 06-6940-4330(代表)
制作/丸山印刷株式会社

